

2020年12月15日

## 日本ユニシス

## SWIFT が推進する外国送金高度化に対応したプロジェクトを始動

～国内地銀初、SWIFT が提供する SIL と国際勘定系とを連携し着金コンファメーションを自動化～

日本ユニシスは、SWIFT<sup>(注)</sup> が推進する外国送金高度化の取り組みと歩調を合わせ、外国送金をはじめとした金融機関の外為事務デジタル化を実現するためのプロジェクトを開始します。

まず、SWIFT が提供する SIL (SWIFT Integration Layer) アプリケーションと国際勘定系システムを連携し、海外の送金先に対し着金連絡を自動化する仕組みを沖縄銀行に導入しました。

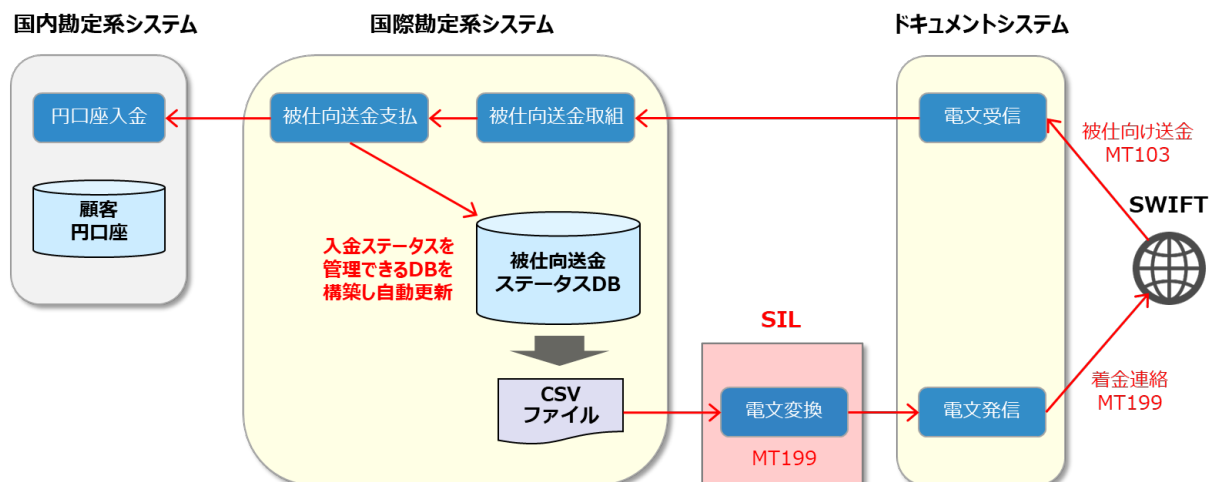
## 【背景】

従来、銀行間の外国送金では、「いつ届くか分からない」また「手数料がいくら掛かるか分からない」という課題がありました。SWIFT はこのような課題を解決するため、送金を中継する金融機関での処理状況や、受取銀行内での着金状況を可視化できる gpi (グローバル・ペイメント・イノベーション) の導入を進めてきました。日本ユニシスは、gpi 対応の一環として、業務面およびシステム面から地域金融機関向けの対応方針について、沖縄銀行と SWIFT の 3 者で検討を行ってきました。

## 【SWIFT gpi の自動化対応】

gpi で着金連絡の自動化を行うには、国際勘定系システム内で支払口座への入金ステータスを管理する必要があります。特に地域金融機関においては、国際勘定系システムに対する対応コスト負担が大きく、自動化の実現について課題がありました。SWIFT では、SIL アプリケーション上で動く gpi 着金コンファメーションを生成するパッケージを開発しました。当社は、SIL を使った導入方法について沖縄銀行と SWIFT の 3 者で検討を行い、国内地銀では初めて沖縄銀行で SIL と国際勘定系システムとを連携した着金コンファメーションの自動化を実現しました。これにより、銀行では着金状況を送金ごとに日々確認し、着金コンファメーションをマニュアル入力するような事務作業が不要となります。

## &lt;SIL 連携概要図&gt;



## 【ISO20022 対応に向けた外国送金のデジタル化】

SWIFT は、2022年11月から国際標準である ISO20022 に段階的に移行することを計画しています。新しい ISO20022 フォーマットでは、従来の電文フォーマットに比べデータ量が 10 倍となり、項目内容も大幅に拡充される予定です。

従来の金融機関事務では、送金者が手書きの依頼書に記入したものを、SWIFT の形式に合致しているか項目ごとに行員がチェックしたうえでシステムに入力していましたが、項目が細分化されることで、書類ベースでの事務は継続困難になることが想定されています。日本ユニシスは、SWIFT と接続するための従来のドキュメントシステムを ISO フォーマットに対応するだけでなく、入力および確認事務の自動化を実現できるクラウド型の新サービス検討に着手しました。新サービスでは、送金事務をデジタル化できることに加えて、送金データを項目ごと管理できることで、事務負荷が大きいアンチ・マネー・ローンダリング対応も容易にできる仕組みを計画しています。

以上

#### <ISO20022 における主な変更>

##### 1. 従来のメッセージタイプ (MT 形式) が XML 形式に変更

SWIFT で発信するメッセージタイプが XML 形式に変わります。また、項目自体の文字数規定がなくなります。

###### 【現行 MT フォーマット】

タグ 32A) 日付+通貨+金額の構成

###### 【ISO 新フォーマット】

タグ 32A) 

<ReqdExctn Dt> <Dt> <b>2023-09-29</b> </Dt> </ReqdExctn Dt>  <Amt> <InstdAmt Ccy="JPY"> <b>10000000</b> </InstdAmt> </Amt>
--

##### 2. 入力項目が細分化 (構造化)

アンチ・マネー・ローンダリングの厳格化に伴い、送金先を特定しやすくするため、本人情報や送金目的の確認のためさまざまな情報の入力が必要となっていますが、ISO20022 では送金情報を細かく規定できるよう、項目が細分化されます。

###### 【現行 MT フォーマット】

(70文字まで)

###### 【ISO 新フォーマット】

ビル名	<input type="text" value="ON BUILDING"/>
街道名	<input type="text" value="1-1-1"/>
町名	<input type="text" value="TOYOSU"/>
地区名	<input type="text" value="KOTO-KU"/>
都市名	<input type="text" value="TOKYO"/>
国名	<input type="text" value="JAPAN"/>

- ・フォントや禁則文字の制約なし
- ・入力内容が細かく規定され  
項目体系が構造化

注：SWIFT (Society for Worldwide Interbank Financial Telecommunication)

国際銀行間通信協会の略称。グローバルの金融機関などに金融メッセージサービスを提供する、標準化団体。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>

[https://www.unisys.co.jp/newsrelease\\_contact/](https://www.unisys.co.jp/newsrelease_contact/)